

特集

知っていますか？ メディアリテラシー

～情報社会を生き抜くためのヒント～

世の中には、新聞やテレビ、インターネットなど様々なメディアがあふれています。情報の送り手が「何を伝えたいのか」によって、受け手の印象も大きく変わってきます。メディアによって作り出された男女の姿も、時代とともに変化しながら、気づかないうちに私たちの価値観に影響を与えています。情報があふれる現代社会だからこそ、今号では、情報を読み解く力＝メディアリテラシーを養うことの大切さを考えてみたいと思います。(竹下)



皆の意見や
反応を、次
の記事の参
考にします

女性の
視点は？



読む人の感想も
さまざまです



記事にはいろいろな人
ものが関わっています



K市で新種のきのこ
が発見されました



情報が届くまで

アニメーション(アニメ)から 見える男の子・女の子

アニメ全盛の70年代

誰もが口ずさむ人気アニメ主題歌にも、その時代が求める「男の子」「女の子」像が表れています。

いわゆる、「男の子向け」アニメ主題歌では、マーチ調で力強い歌詞を何度でも使い、使命をもって戦う主人公の姿を歌い上げています。一方「女の子向け」アニメ主題歌はどうでしょう。ポップな曲調に「わたしは、わたしは○○」と天真爛漫な女の子が、自身のことを歌詞にのせ語りかける歌声は、乙女チックな世界観を強調しています。



主題歌だけみても男女の捉え方は意識的に分けられて表現されています。普段、私たちが「当たり前」だと思っていた価値観は、実は子どものころに受け取ったイメージに大きく影響されていることに気づかされます。

時代によって変化するイメージ

1980年代に入り女の子向けアニメにも変化がみえてきました。「正義」「問題解決」「自己の自立」を求め「戦う」女の子が登場する一方、セクシーさを強調した美少女キャラなど、女の子のイメージは、制作者側の意図により新しく作り上げられました。

図1 1970～80年代 テレビアニメの主題歌

項目	男の子向け	女の子向け
曲調	マーチ調⇒ロック調	ポップス、歌謡曲
伝えたいこと	大義を貫徹、正義のため、宇宙を守る、使命感、戦う、仲間意識	自己紹介(私の気持ち、名前、嗜好)
色調・イメージ	強い色調 壮大な宇宙、ロマン、男同士の絆、強い身体	パステル調、光(キラキラ)、外国の風景、洋館、馬車、おしゃれ

国広陽子さん講義より Ms. スクエア作成

今ではCM・広告でもよく起用されています。毎日、放映されるアニメ番組。子どもがいる家庭においては、忙しい家事の時間帯に、子どものお守り役としてありがたい存在です。しかし、時には作品や番組から受ける影響を気にかけて、一緒に見てみると違和感や疑問に感じるシーンがあるかもしれせん。その時は、子どもや家族・友達と一緒にそのことについて考えてみてはどうでしょう。新しい価値観を一緒に共有できるチャンスかもしれません。(川村)

